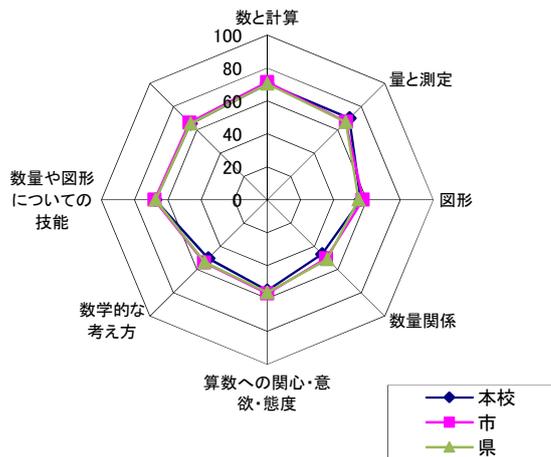


# 宇都宮市立宝木小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	70.5	71.5	70.4
	量と測定	70.0	67.0	66.9
	図形	56.3	57.6	55.0
	数量関係	46.7	50.2	51.1
観点	算数への関心・意欲・態度	55.1	57.0	56.3
	数学的な考え方	50.4	53.8	53.6
	数量や図形についての技能	67.6	68.0	67.4
	数量や図形についての知識・理解	65.4	66.3	65.4



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、県の平均とほぼ同じである。</p> <p>○基本的な計算問題はいずれの問題も6割以上の正答率であり、特に3けた÷2けたの正答率は7ポイント、小数第一位+整数12.2ポイント、真分数+帯分数の計算は5.5ポイント、県の正答率を上回っている。</p> <p>●倍とわり算の文章問題を表した図の構造をとらえる問題では、8.5ポイント下回っており、課題が見られる。</p>	<p>・計算の技能の定着を図るための取組が功を奏しているため、引き続き行うとともに、子どもたちに苦手意識の強いわり算などについて日常生活との関連から興味関心をもたせるような授業の工夫や課題提示を行っていく。</p>
量と測定	<p>平均正答率は、県の平均と比べやや高い。</p> <p>○180°より大きい角の求め方は正答率81.2%で、県より7.2ポイント、身近にあるもののおよその面積を問う問題は正答率53.5%で、県の正答率を15.1ポイント上回っている。</p> <p>●分度器の目盛りの読み取り方を問う問題では、県の正答率とほぼ同じであったが、正答率が65.3%とやや正答率が低かった。</p>	<p>・角については、90°、180°について着実に理解させ、およその角度を予想してから分度器を使って様々な角度の測定を練習させて定着を図っていく。</p>
図形	<p>平均正答率は、県の平均とほぼ同じである。</p> <p>○四角形の対角線の性質の理解を問う問題では、正答率が68.3%で県より8.5ポイント高く、直方体のある辺に垂直な辺の理解を問う問題では、正答率が76.2%で県の正答率11.3ポイント上回った。</p> <p>●地図から情報を読み取り平行四辺形の特徴を使って2つの道のりが等しくなる理由を説明する問題では、正答率が8.4%で県より7ポイント低く、無答率は16.8%であった。</p>	<p>・図形の学習でこれまで進めてきたように、具体物の操作を通して実感的な理解を伴った学習をさらに推進していく。</p> <p>・授業内では、言語活動を取り入れてきたが、グループで自らの考えを整理し話す場面を設定するだけでなく、当初の自分の考えや話し合いの結果をしっかりと文章としてまとめる場面を設定していき、文章で説明することの定着を図っていく。</p>
数量関係	<p>平均正答率は、県の平均と比べやや低い。</p> <p>○四則の混じった式の計算順序を問う問題は、59.4%の正答率であり、県の平均とほぼ同じだった。</p> <p>●折れ線グラフと棒グラフを読み取り、それを根拠に理由を説明する問題では、正答率が14.9%と低く、県と比べても3.9ポイント低く、無答率は38.6%であった。</p>	<p>・これまで以上に、他教科や学校生活の様々な場面で、表やグラフを読んだり表したりする活動を取り入れ、表やグラフを正しく読み取る力を育てる。また、読み取ったことから考えられることを文章でまとめる学習も取り入れて、資料を分析する力を育てていく。</p>